

2025（令和7）年度 京都大学 入試問題 文系 第2問 解答例

*1行は約25文字（+句読点などの記号）。20字程度とすべきだと主張する人もいる。

問一

いつでもどこでも一人孤独に作品と向き合う行為である読書が至るところで常に行われ、大勢の読者の様々な情動が世界中で静かに生じ続ける様が想像されるということ。

問二

優れた物語は、登場人物間に善悪の基準による上下の序列がなく、直視すべき事柄を率直に描写しているということ。

問三

読書の効用を楽しさだと答えると、その具体的内容を問われたが、軽率に答えれば、効用がなくとも、書かれた内容以上に読む行為自体の楽しさから読むという真意に反し、特定の効用を認めていると勝手に誤解されると思われるから。

問四

文壇にある者たちが、戦争の最中に「言葉／文学は無力か」と自省してみせる態度の背後には、言葉や文学に携わる者たちだけは、戦争を起こす者たちとは無関係に平和を求めていると自認する、他者を見下した本音があるということ。

問五

言葉や文学は、現状への抵抗をもちつつ、直視すべき事柄を言葉にして読者に届け、平和を含む望ましい概念の結実を人間の意志によって成立させるための唯一の営みであり、戦争に対して何もできないはずがないということ。